

令和 5 年 6 月 22 日

令和 4 年度の主な事業報告

社会福祉法人 畏敬会

社会福祉事業 レーベンホーム戸田：令和 4 年度末に 1 階フロアに、ユニット型特養 8 床＋個室ショートステイ 4 床、計 12 床への増床工事が終わり、令和 5 年度 4 月より特養従来型 50 床、ユニット型 50 床＋ユニット型ショートステイ 4 床の体制で開所 10 年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症が 5 類になっても感染対策を継続し、ショートステイ利用者の感染対策と利用者の満足度を高めるため、1 階は、入室後 5 日間を過ごす第 2 共同生活室で日中を過ごす一方、夜間は個室対応（陰圧換気装置つき居室 1）することで施設内へのまん延防止に取り組みます。施設稼働状況は、戸田では新型コロナクラスター感染を抑えられたため、2022 年は従来型は 96.3%、ユニット型は 97.6%という高い稼働率を維持できた一方、今冬の入院者・退所者増にともない、23 年現在までの稼働率はそれぞれ 94%、90%程度と低迷しています。しかしながら令和 4 年度の決算において収入はほぼ予算案通り、一方、支出は 1800 万円の支出増となりました。

社会福祉事業 レーベンホームわらび：5 年目を迎えるわらび施設では、2022 年 8 月に 2 階従来型特養、12 月に 3 階ユニット特養にそれぞれ新型コロナ感染クラスターが発生し 22 年の稼働率はそれぞれ 94.8%、95.4%、従来併設ショートステイ 41.7%と多少の影響は受けたもののそれ以前とは異なり陽性者も施設内療養で対応したため稼働率には影響は軽微でした。しかしながらショートステイはロングショートを中心として利用と制限したため、地域のニーズに答えられたといえず、現在 2 階にある陰圧換気装置つき二人部屋 2 室、計 4 床を、都度利用開始 5 日間を夜間は陰圧室、日中は他の入居者を離れた別共同生活室を利用することで、施設内感染を防ぐ一方、利用者の満足度の高いショートステイサービスを提供できる体制を確立します。なお戸田・わらび職員の新型コロナ感染対策として、発熱など症状があればまず休む、その後の出勤前に配布している抗原検査キットで自己判定をするという体制を取っており、休める体制を作るために職員数増を進めています。

介護現況報告

今回のコロナ禍で高齢者介護施設の取り巻く環境も変化しております。入居申し込みにおいてユニット型特養の希望者の減少は埼玉県南地域でも散見されています。これはユニット型施設の増多（とくに川口市郊外施設の空床の増加）とともに、面会制限の継続で入居してしまうと面会できない、面会できなければ遠くの施設でも構わない、またユニット型の入居費用の高額化から高齢者夫婦世帯での生活費の節約、さらに入院で介護が必要になっても、老健施設への入所・リハビリ・在宅復帰計画中で特養入所までたどり着いていないなどいくつかの理由が考えられます。一方、入院後の在宅復帰困難事例も増えており、ショートステイの需要として退院後の在宅復帰見極めのためのショート利用も今後見込まれ、戸田・わらび特養入居への橋渡し役を担ってもらえるよう考えています。そのため戸田ではユニット型としては安価な個室料金設定としました。感染対策を施した入退室や面会制限の緩和など、地域に住む人に寄り添った使い勝手の良い、さらに最新の IT 機器を導入した見守り強化型ユニットを考えています。

